



▲福岡海岸で吊り上げ救助訓練を行う福岡海上保安部

夏季合同海難救助訓練 海の「もしも」に備える連携確認

令和6年度夏季合同海難救助訓練が、7月8日に福岡海岸で行われました。訓練を行ったのは、福岡海上保安部、宗像警察署、宗像地区消防本部、福岡海岸利用組合「福津ビーチ倶楽部」の皆さん。海難事故の犠牲者をなくすため、互いに連携しながら、ドローンやヘリコプター、警備艇や巡視艇を使って、捜索訓練や搬送訓練、吊り上げ救助訓練が行われました。

福岡海上保安部は「救助における一分一秒の大切さ」を力強く語るとともに「飲酒後は海に入らない」「ライフジャケットをなるべく着る」などの事故予防策を呼び掛けていました。



▲サザエを見せる原崎市長(右から2人目)と各団体の代表者

廃棄食材を使った畜養サザエの試食会 福津市の新たな特産に

廃棄予定の食材を使ってサザエを畜養するイオン九州、九州大学水産実験所、福津市の共同研究プロジェクトにおけるサザエの試食会が7月10日に行われました。このサザエは、市内の小・中学校やイオン九州各店舗から廃棄予定の昆布とキャベツを使って、1カ月畜養したものです。

九州大学の栗田准教授は「畜養前に比べ、20%身入りが増え、甘味やうま味を表す数値がかなり向上していた」と説明。その後、参加者全員でサザエの試食会を行い、サザエを口にした参加者からは、思わず笑みがこぼれていました。



発行月に1歳の誕生日を迎える赤ちゃんの写真を募集。掲載を希望する人はプリントした写真を市子育て支援センター「なかよし」に持参するか、市公式ホームページでも受け付けています。持参の場合、写真はプリントしたものに限ります。データの持ち込みは受け付けられません。

毎号先着24人で、11月生まれの赤ちゃんは9月19日(木)が受付期限です。受付、問い合わせ 市子育て支援センター「なかよし」(ふくとびあ) ☎0940・35・8382

休館日 月曜日、第2土曜日とそれに続く日曜日、祝日

▶写真申込フォーム



津屋崎祇園山笠復活 50周年「記念式典」「裸参り」「追い山」 地域の活性化と振興開発を願う山笠が復活50周年

津屋崎祇園山笠は、博多祇園山笠と深いつながりがあり、300年以上前に櫛田神社から波折神社に祇園の神様を迎えたのが始まりといわれています。昭和38年ごろ、一度途絶えかけた津屋崎祇園山笠は昭和50年に再始動し、今年で復活50周年になります。

復活50周年を祝い、7月20日に記念式典が開催され、津屋崎祇園山笠を支えてきた人などの功労者表彰が行われました。また、北流、岡流、新町流の3つの「流」のうち、くじ引きで「一番山」を引き当てた北流の代表が、この先の将来に向けた

思いを語りました。その後、上半身裸で締め込み姿の舁き手たちが、提灯を掲げて金刀比羅神社、宮地嶽神社、波折神社を駆け抜ける裸参りが行われました。

7月21日には追い山が行われ、筑前津屋崎人形巧房の人形師が丹精込めた豪華絢爛な山笠を舁き手たちが「オイサツ、オイサツ」の掛け声とともに担ぎ、津屋崎千軒通りを駆け抜けました。狭い路地のそばで追い山が通るのを見守る観客は、声援を送ったり、勢い水をかけたりして舁き手を応援。津屋崎のまちが熱く、一体となった一日でした。



①津屋崎祇園山笠50周年記念式典のあいさつをする津屋崎祇園山笠振興会の花田実会長 ②5人の功労者を代表してあいさつする西住辰夫さん ③「一番山」を引き当てた北流の西野晃代表 ④裸参り前に一番に波折神社を参拝する北流 ⑤北流と岡流に出迎えられて参拝する新町流 ⑥観衆が見守る中、裸参りに出発する岡流



▲夏支度を行う大工とそれを見学するツアー参加者

豊村酒造の夏支度見学モニターツアー ひと夏に一度の特別な体験

豊村酒造の夏支度を見学できるモニターツアーが7月17日に開催されました。福津市初の国指定重要文化財に登録された豊村酒造は、明治期に福岡県下最大級の醸造量を誇った日本酒醸造施設で、明治から大正にかけて整備された一連の施設が保存されています。

今回、ガラス戸や白壁を取り払い、風通しのよい夏仕様にする作業が特別に公開されました。夏支度のほか、酒造公認地域ガイドが当時の写真を見せながら通常非公開のエリアを説明し、参加者の皆さんは熱心に話を聞いていました。